

田中智子 著

『近代日本高等教育体制の黎明： 交錯する地域と国とキリスト教界』

学会誌や紀要で発表された11篇の論文を加筆・修正したものに、書き下ろしの序と結が加えられている。府県・文部省・キリスト教界の3つの要素のからみ合いから、文明開化の時期に地域の高等教育体制が形成されていった過程を明らかにしている。前半は西日本で活躍したアメリカン・ボードの医療宣教師（宣教医とも言われる）のジョン＝カティン＝ベリー（1847-1936）の足跡を辿り、地域の医学教育とキリスト教勢力との関係を明らかにし、今後の医史学研究にとって有益な情報・視点を提示している。索引は人名、項目にわかれ、項目索引はさらに学校（教育・医療施設）、キリスト教系団体・組織などに細分化されており、使いやすくなっている。

内 容

序——未分化時代の地域的力学	3
第I部 キリスト教勢力の出現	
—地域史としての宣教史	
第一章 神戸における近代医療の揺籃と	
J・C・ベリー来港	25
第二章 医療宣教師ベリーと兵庫・飾磨県の	
行政・社会	51
第三章 岡山県における医学・洋学教育体制の	
形成とアメリカン・ボード	83

第四章 京都府下の医学教育態勢と新島襄の	
医学校設立構想	119
第五章 大阪官立学校とキリスト教	149
第II部 文部省の学校の登場	
—地域史としての官立学校史	
第六章 第三高等中学校設置問題再考	
—京都府における「官立学校」の成立	177
第七章 高等中学校医学部時代の到来	
—岡山県における「官立学校」の成立	215
補章 官立学校誘致現象の生成と変容	
—京都と大阪の教育戦略	247
第八章 府県連合学校構想史試論	
—一八八〇年代における医学教育体制の再編	283
第九章 「官立学校」概念の輪郭	
—「准官立」問題と同志社	323
終章 諸学校令下の高等教育体制再編	
—東華学校（＝半県半民・同志社分校）の射程	367
結——これからの研究に向けて	408

（澤井 直）

[思文閣出版、〒605-0089 京都市東山区元町355、
TEL. 075 (751) 1781、2012年3月、A5判、421
頁、7,000円＋税]